

公益社団法人日本理学療法士協会東北ブロック協議会

平成24年度第2回理事会会議録

議事録作成：菅野翔（宮城県）

◆概要◆

日時：平成24年11月16日（金）15:00～18:00

会場：ホテル青森 4階 錦鶏の間（西）

出席者（敬称略）

【理事】会長：渡邊好孝（宮城県）、副会長（議長）：高橋仁美（秋田県）、理事：伊藤和夫、川口徹、古木名寿澄（青森県）、櫻田義樹、及川龍彦（岩手県）、須藤恵理子（秋田県）、高橋俊章（山形県）、舟見敬成（福島県）

【事務局】中野渡達哉、菊地雅行（宮城県）

【学術局】遠藤武秀（学術局長）、米沢勇悦（学術大会部長）、畠山和利（機関誌編集部長）、小野部純（教育研修部長）

【第30回大会】川口徹、三浦雅史（青森県）

【第31回大会】舟見敬成、二瓶健司（福島県）

【第32回大会】高橋俊章（山形県）

議事

冒頭に新役員として秋田県理事の須藤恵理子氏、福島県理事の坂内康典氏が紹介された。

報告事項

I. 東北ブロック協議会中間会計監査報告

（報告者：中野渡達哉）

安藤監事、高橋監事が欠席であるため中野渡事務局長から代理で報告された。10月26日、東北保健医療専門学校にて東北ブロック協議会中間会計監査が行われ、現金出納帳、預金通帳、領収書などを照合の結果、適正に処理されていた事が伝えられた。

II. 第30回学術大会（青森県理学療法士会）報告

（報告者：三浦雅史）

三浦準備委員長より第30回東北理学療法学術大会の進捗状況が報告され、変更点として書籍販売が紀伊国屋書店の都合により中止となったことが述べられた。

事前参加登録者は220名、合計で850名見込んでいること、レセプションへ90名近くの参加があることが報告された。

III. 第31回学術大会（福島県理学療法士会）報告

（報告者：二瓶健司）

二瓶準備委員長より第31回東北理学療法学術大会開催企画案、日程案、予算案について別紙資料に沿って以下の報告がされた。

1. 概要

- 1) テーマ：「多様性の中から未来を見つけ出す」
- 2) 期日：平成25年11月30日（土）～12月1日（日）

(11月29日(金) 学術局会議、理事会等の諸会議)

3) 会場：ビッグパレットふくしま (福島県郡山市)

4) 大会役員

大会長：山口和之(福島県理学療法士会会長) 副大会長：横島啓幸(太田総合病院附属太田西ノ内病院)、遠藤敏裕(郡山健康科学専門学校)、船見敬成(総合南東北病院)、準備委員長：二瓶健司(星総合病院)、事務局長：儀間裕貴(郡山健康科学専門学校)、学術局長：平野雄三(南東北春日リハビリテーション病院)、運営局長：佐藤竜太(トータルヘルスクリニック)

5) 参加費：会員当日¥5,000、事前登録¥4,500、非会員¥6,000、学生¥1,000、一般無料

6) 内容：

(1)演題発表：口述、ポスター(計100題予定)

(2)大会長基調講演

(3)特別講演：入谷誠(足と歩きの研究所)

(4)セミナー：鈴木俊明(関西医療大学)、小松泰喜(東京工科大学)、大塚功(相澤病院)、内山覚(新東京病院)

(5)特別企画：後藤昇(郡山健康科学専門学校)

(6)公開講座：白石豊(福島大学)

大会ホームページ：<http://tohokupt31.web.jc.com/>

連絡先：第31回東北理学療法学術大会 事務局長 儀間裕貴 郡山健康科学専門学校 理学療法学科

・学術局からの指摘として口述発表とポスター発表は同時間でない方がよい、エキスパートセミナーは名称が分かりづらい点が挙げられ、プログラムの変更を検討することが追加で述べられた。

2. 予算案

・収入：学会援助金600,000円、抄録発送援助金400,000円、会場整理費4,600,000円、広告協賛300,000円の総収入額6,050,000円。

・支出：会場設営費1,600,000円、印刷費1,500,000円、ネームカード費130,000円、発送通信費200,000円、講師費1,000,000円、会議・人件費1,000,000円、事務費200,000円、ホームページ作成および運営費50,000、雑費150,000、予備費220,000などの総支出額6,050,000円となった。

IV. 第32回学術大会(山形県理学療法士会) 報告

(報告者：高橋俊章)

高橋理事より第32回東北理学療法学術大会役員について報告された。

大会長：多田利信(みゆき会病院)

準備委員長：岩井章洋(山形県立中央病院)

期日、会場、テーマについては次回の理事会で報告することが述べられた。

V. 学術局報告

1. 学術大会部(報告者：米沢勇悦)

第29回東北理学療法学術大会最優秀賞として、照井俊明氏(秋田県立脳血管センター)「キセノン光の星状神経節近傍照射が覚醒度に及ぼす影響に関する検討」、奨励賞として、木村いずみ氏(みやぎ県南中核病院)「急性期脳卒中患者における転帰予測因子の検討」が選考規定により決定されたことが報告された。

2. 機関誌編集部（報告者：畠山和利）

東北理学療法第24号は4,600部発行されたことが報告された。第25号は12月17日に投稿締め切りを設定、春に入稿、平成25年6月に発行予定。

投稿者とのやり取りを、ここ2年間電子メールで行っていたがセキュリティについても問題ないと判断し、今後投稿規定に電子メールでの投稿方法について加筆する旨を、17日の拡大編集会議を経て決定していくことが述べられた。

3. 教育研修部（報告者：小野部純）

教育研修部の活動として現在は主にはないが、今後協会主催のリカレント研修会等の要望が東北ブロックに対してあれば検討していく事が述べられた。

4. 学術局会議（報告者：遠藤武秀）

局長、副局長、学術局員の任期が今年度で満了となるため、局長が宮城県、副局長が青森県、学術大会部が山形県、機関紙編集部が岩手県、教育研修部が福島県から選出されることが報告された。

学術大会の運営のあり方について別紙資料（①今後の学術大会の指針について、②大会イメージ企画について、③日程/運営について、④予算について）に沿って報告された。また過去13年間のデータと今年度の他ブロックの開催状況についても提示され、今後の学会参加者、演題数、会費、会員数、援助金についての推移が示された。

遠藤局長より今後魅力ある学術大会にするには、予算増額、業者の参入は必須であり検討が必要と提案された。学会補助金の増額については緊急性があり、追加議事にて審議されることとなった。

VI. 事務局報告（報告者：中野渡達哉）

1) 公益社団法人 日本理学療法士協会関連

①第2回JIMTEF 災害医療研修コースへの参加者推薦の調整

東北ブロックからは藤井光輝氏（岩手県立中央病院）が推薦されたことが報告された。②協会学会受付・会員管理等システムに関するスタッフ訪問の連絡・調整

協会担当者が11月16日、17日にわたり窓口を開くことが報告された。

2) ホームページ

①アクセス数

別紙のグラフに沿って説明され、徐々に増加している事が述べられた。

②掲載状況

ホームページ上に、第30回東北理学療法学術大会、理学療法リカレント講習会（5月-9月）、臨床実習指導者研修会（8月）の情報を載せたことが報告された。

③各県研修会情報担当者との説明会：今後ホームページ上にどの各県のどこまでの範囲の研修会を載せていくか、各県の代表者と11月18日、青森市文化会館小会議室で説明会を開催することが報告された。

検討事項

I. 第1号議案：平成24年度東北ブロック協議会中間決算の承認に関わる件（提出者：中野渡達哉）

- ・別紙に沿って東北ブロック協議会中間決算について報告された。
- ・収入に関しては協会からの補助金1,280,000円から1,600,000円へと増額され、9月末時点での当期収入合計が1,758,350円であることが報告された。支出合計は3,158,357円で、当期収支差額が9月末時点で-1,400,007円、繰越収支差額が3,050,867円であることが述べられた。

II. 第2号議案：研修会開催情報のホームページ掲載について（提出者：中野渡達哉）

- ・今後各県の研修会の情報を、タイムリーにホームページへ掲載する必要があり、1ヵ月10～20件更新した場合の見積もりを3社から取った。
- ・榊理事より、①3社の見積もりはデータをホームページ上に載せるためだけの費用で、各県から送られてくるデータを一定のフォームする作業はどこで行うか、②研修会の掲載基準はどのように設定するか、質問が挙げられた。中野渡事務局長より、①に関しては一旦東北ブロック事務局にデータを各県から送ってもらい、必要な情報が揃っているか事務局で確認した後、業者にデータを送りたい、②に関しては、11月18日の各県研修会情報担当者との意見交換会で話し合うこととするが、初期段階として協会主催の研修から中心に載せていくこととなることが述べられた。
- ・審議の結果、3社のうち、月4,400円～7,700円との提示があった株式会社リライブへの委託を進め、予算は今年度の予備費から計上されることが承認された。

III. 第3号議案：第29回東北理学療法学会余剰金の使途について（提出者：中野渡達哉）

- ・第29回大会余剰金123,909円の使途をどうするか、前回からの継続審議として提出された。
- ・前回理事会では一旦ブロックに戻すことは決定しており、各県の震災復興支援となるよう義援金として寄付する、東北ブロックの予算に組み入れるといった案が出ていた。
- ・本審議では基金の設立や積立の検討、被災3県への譲渡といった案が出たが、前回大会がチャリティという形を取り岩手県士会の負担も大きかったということ踏まえ、審議の結果、岩手県士会へ返納されることが決定された。

IV. 追加議案学会補助金の増額について

- ・現状、ブロックから学会への補助金は一律600,000円と抄録発送費の実費分となっていることを踏まえ、遠藤事務局長より補助金増額の検討を提案され審議された。
- ・及川理事より、ブロック予算の収支、繰越金の変動について質問があり、中野渡事務局長より現状ではほぼ増減はないが、今後会員数の増加や、協会からの補助金の増額（1,200,000円→1,600,000円、2,500,000円？）により変化する可能性があることが報告された。
- ・高橋理事より、会員数増加分の会費を増額してはどうかとの意見が出された。
- ・審議の結果、第31回大会への補助金に関しては会員数増加分の会費を考慮し、400,000円増額し、来年度予算から支出されることが承認された。それ以後の学会への補助金については会場費として、1,000,000円を目安としていくこととなった。

V. 第4号議案任期満了に伴う来季の役員について（提出者：渡邊好孝、中野渡達哉）

- ・会則第3章第10条「本会役員の任期は2年」より、今年度末をもって役員は満了となっているため、来期の役員について審議された。
- ・審議の結果、現執行体制で2年進めることが満場一致で決定された。学術担当理事についても継続して及川理事が担当することとなった。

その他

- I. 渡邊会長より東北ブロック一丸となり、山口和之氏を応援していくことが提案された。
- II. 舟見代理理事より第30回学会大会で、各県の有志により山口和之氏応援のチラシを配ることが伝えられた。